

防霜対策について

果樹は、発芽から日が経つほどに低温に対する耐性が弱くなります。特に果樹経営の要となるさくらんぼの防霜対策は徹底して行いましょう。発芽10日前後で-3℃程度の低温で被害が大きくなり、開花直前になると-1℃でも3時間以上遭遇すると被害を受けてしまいます。霜注意報や最低気温の予想を参考に、防霜対策を実施してください。

■防霜対策

- 燃焼資材を燃やす（煙の少ないものを使用してください）
- 地表面に散水（暖かい日の午前中に行いましょう）
- 降霜時の樹上散水（散水氷結法）
- 防霜ファンを使用（-2℃以下の強い霜の時は、燃焼法と併用）

■防霜対策おすすめ資材

○燃焼資材「霜キラー」

米ぬかロウを燃焼させる防霜資材です。使用方法は、缶の中に霜キラーと専用の燃焼芯をいれて芯に適量の灯油を浸して着火するだけなので簡単です。

燃焼時間は霜キラー3kgで約3時間30分（無風時）燃焼します。

目安として10aに20缶（10kg×7袋）を設置すると効果が得られます。

○葉面散布資材

霜ガード	アイスバリア
10kg	1000ml（1.1kg）
葉・蕾・花・幼果にゼオライトを付着させ凍霜害を軽減させる防霜資材です。 推奨展着剤「グッドパートナー」を加用することで、一層の防霜効果が期待できます。	糖類（トレハロース）を配合し作物の凍霜害を軽減させる防霜資材です。
開花3～4週前の蕾期と風船状になった時の適宜 （散布は枝の濡れていない状態で日中15時頃まで行う）	
50倍 開花期～幼果期は50～100倍	333倍

りんご黒星病対策強化のお願い！！

1 雨前防除を徹底する

○防除予定日に降雨が予想される場合は前倒しで防除を行う。

2 薬剤散布量を守る

- 発芽直前 **350ℓ以上**／10a
- 展葉期～落花直後 **400ℓ以上**／10a
- 5月中旬以降 500ℓ以上／10a

3 防除間隔を守る

○予防防除が主体となる為、雨前散布を基本とし、防除間隔は、**10日以上あけない。**

4 耕種的防除で菌密度を下げる

- 被害葉、被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。
- 被害葉の落葉処理をする。

5 薬剤の付着しやすい園地（樹）にする

○剪定により、薬剤が全体に付着しやすい樹にする。

※ JAてんどう病害虫防除暦を参考に対策強化をお願いします。